



あした

選挙

行く？

創刊号

杉並で選挙に行こう

若い人がもっと気軽に政治に参加できるように。
政治をもっと身近に、楽しく感じることができれば
若い人は自分から投票に行く。

杉並区の投票率が日本一になるように。
明るい選挙であるように。

明日午前中に
投票行っちゃおうか

そーいえば、
選挙あるね

行くのちょっと
めんどくさいなあ…

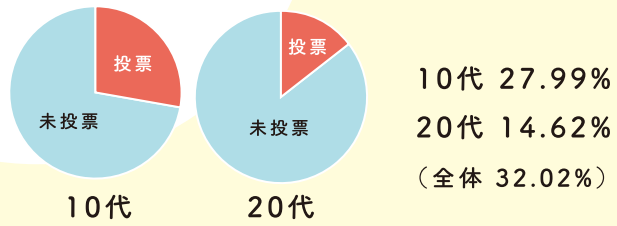
選挙
どーする？

昨日、期日前
行ったよ

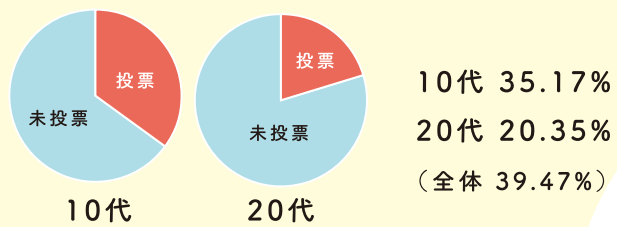
期日前って
なに？

区の10代・20代の投票率の現状

◆平成30年 区長・区議補欠選挙の投票率



◆平成31年 区議会議員選挙の投票率





cross talk!

公職選挙法の改正により18歳選挙権が実現して、4年が経過しました(2016年6月19日施行)。これは、長年続く若者の“政治離れ”を食い止めようと講じられた施策ですが、残念ながらなかなか目に見える効果につながっていないのが実状です。では、どうすれば若者は選挙に出向くのか。今回は杉並区選挙管理委員会委員のみなさんに、若かりし頃を思い出してもらいながら、課題や解決につながる道筋などについてお話いただきました。

選挙のめいすいくん
公益財団法人明るい選挙推進協会の公式イメージキャラクター

若者が選挙に行くのは時代次第?

選挙管理委員会とは?

公正な選挙を行うため、区長から独立した機関として置かれるもので、区議会において選挙された4人の委員により構成されています。

こちらの4名にお話を伺いました!

委員長 本橋正敏
委員長職務代理者 梅田久恵
委員 小井みずほ
委員 與川幸男 (敬称略)



—初めて政治、選挙に興味を持ったきっかけは?

梅田:選挙を身近に感じるようになったのは、自分が区議会議員選挙に出る状況になったときです。地域の役をやっていたので推されて選挙に出たわけですが、失敗したら次はないと言われ、一生懸命やらないといけないと思い、出た記憶があります。政治については、そのときに考え出した感じです。

小井:高校生の頃です。1969年、御茶ノ水がパリの学生街にちなんでカルチェ・ラタンと呼ばれていて、街頭に演説会やデモをする人がたくさん集まっていたので、その光景を目にしていました。当時、一部の若者の間では、取って選挙に行かない姿勢に共感が広がっていました。選挙に行ってもどうせ議会にダイレクトに反映されないだろう、だったら直接行動を取るべき、という考え方が支持されていましたね。

與川:私の若い頃も60年安保の反対運動が熱気を帯びていて、友人たちと国会前にデモに行くのは当たり前でした。あの頃の学生は政治的な関心が極めて高く、このままじゃいけないという危機感を持っていました。選挙は当初は国政選挙に行くくらいでしたが、東京都庁に就職してからは地方自治にも関心が出てきて、区長選、区議会議員選にも行くようになりました。水俣病、イタイタイ病、毎日スモッグが出て隅田川も汚れている、そうした公害問題なども頻発していたので、身近なところから地道にやらないと世の中は変わらないと実感し始めたんですね。仲間を集めて勉強会もやっていました。

本橋:初めての投票は昭和51年の総選挙です。誰に投票したかまでは覚えていませんが、親はもちろん

ん、大学のゼミの友人や先輩も行ってたので、行くのが当たり前という感覚でした。政治に特別な関心があったわけではないけれど、投票に行くのが自然な行動でしたね。

—選挙の最初の記憶は?

梅田:高校時代の仲間のお父さんが市長選挙に出ると聞いて、一票が大切だと思い、行きました。たしかそれが最初です。その友達がいなければ行ったかどうか定かではないけれど、とにかく当選してもらいたいという気持ちがありました。友達も喜ぶでしょうし。そういうわけで、人間関係の延長に初めての選挙がありました。

小井:市議会議員の選挙で、そのときは母が推薦する方に投票しました。誰かに入れなくちゃいけないけれど、知らない人の名前は書けない。ならば母が言っていた人を書こうと。ですので、私も自分で調べて、ということではなかったです。でもそこから、選挙は政党より人で選ぶほうが良いと思うようになりました。生協活動を始めたから、その生協が地方議員を出していたので、会ってみたら信頼できる方でした。そこで、生協がどうのというより、彼女への信頼から選挙活動を手伝うようになりました。身近なハードルが低いところで選挙が行われると、関心が出てきますね。

與川:大学生の頃の国政選挙です。先ほど申したように、時代の変革期でしたから、国政に関心がありました。投票だけが全てではないと思っていただけで、民主主義は代議制、だから直接どれだけ訴えたところで世の中変わりません。川をきれいに、物価を安く、住環境を良くしてもらいたい。そうしたことに積極的に発言する政党を選びました。投票はいいチャンスです。自分が

選挙四方山話

杉並区選挙管理委員会による

選んだ候補者が受かったかどうか、結果を見てウキウキすることもありました。

本橋:記憶は殆どないけれど、ずっと杉並に住んでいるので、卒業した小学校が投票所でした。母校が変わってないなと懐かし感じたりしました。選挙そのものというより、そういう思い出が先に来ちゃいましたね。

—若い世代の投票率向上に向けて、提案は?

梅田:自分の経験から言うと、若い方にも議員に挑戦しようというきっかけみたいなものがどこかにあればと思います。ただ、杉並区も色々やってくれているので、あまり地域で困ることがない。そういうことを若い方がどう捉えるかだと思います。

小井:選挙に行かなかった30代の娘が、最近に行くようになりました。子どもが生まれたら変わるのですね。今の若い人たちは、政治的なことを言うちょっと変わった人と思われる心配もあるらしいです。自分の幸福を追求するのに、政治的なことにタッチしない方がプラスだという感覚は根強いのかなと思います。でもそれは、彼らのせいではない。例えば議会活動のインターン制のような若者

が参加できる制度があり、大人たちがバックアップしていくとかが大切ではないでしょうか。

與川:杉並の選挙管理委員会は、小中高の出前授業で模擬投票をやっているの、子供たちにはいい刺激になっていると思います。ポスターコンクールもそうですね。政治への関心を持たせるきっかけづくりとして、このようなことは大切です。地方議員なども日常的に対話を続ける努力が必要で、選挙の時期以外に大学に話をしに行ったり、やれることはあるんじゃないかなと思います。

本橋:期日前投票ができたのが2003年。杉並でも投票する人の3割が期日前です。この制度ができたとき、こんな簡単な手続きでいいのかと思いました。こうした制度があることを20代の方にも知ってもらおう工夫が必要でしょう。それと、区内の投票所の一つに高千穂大学(※)がありますが、期日前投票所も大学をお借りして投票可能となれば、杉並在住の選挙権のある学生は大学内で投票できる。他の自治体でやっているかもしれないし、議論したことがあるかもしれませんが、投票率を上げるためには有効かなと思います。(※)令和3年度からコミュニティふらっと永福に変更





明るい選挙啓発 ポスターコンクール

杉並区選挙管理委員会では、選挙がない時期にも選挙啓発活動を実施しています。
今回は、中でも毎年開催している「明るい選挙啓発ポスターコンクール」について、ご紹介いたします。

杉並区選挙管理委員会では、毎年区内の小中学校や高等学校へ向けて、応募を呼び掛けています。今年は、新型コロナウイルスの影響もあり、応募数が例年よりも少なくなりましたが、268作品の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました。

ご応募いただいた作品は、区の明るい選挙推進委員及び選挙管理委員が選考をします。「明るい選挙推進協議会会長賞」等を受賞された作品は、12月に杉並区役所で表彰式を行い、その後、受賞作品の展示会を永福和泉地域区民センターや区役所で行っています。また、上位に入賞された作品は、東京都へと推薦し、東京都で再度選考が行われ、最終的には全国審査へと推薦される作品もあります。

令和2年度 受賞作品 /

協議会会長賞 (中学生の部)



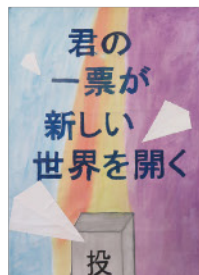
向陽中学校2年 王 絵理華さん

委員長賞 (中学生の部)



松溪中学校2年 森 佳音さん

委員長賞 (小学生の部)



高井戸小学校6年 小島 彩良さん

区長賞 (中学生の部)



向陽中学校2年 大内 花音さん

区長賞 (小学生の部)



高井戸小学校6年 白石 蒼瑠さん

協議会会長賞 (小学生の部)



高井戸小学校6年 七條 暁さん

教育長賞 (中学生の部)



向陽中学校2年 久保 盛貴さん

教育長賞 (小学生の部)



松庵小学校6年 内田 遥さん

選挙啓発デザインの募集について

皆さんのアイデアと豊かな表現力で、
一緒に選挙啓発活動をしませんか？

皆さんは、選挙が近くなると、公共施設や街中に貼ってあるポスターをご覧になったことはありますか？
区では、選挙啓発のためのデザインを募集しています。デザインの形式は、アナログ、デジタル、写真等、自由にお選びいただけますが、必ずA4サイズ(210mm×297mm)以上でご提出いただきます。
加えて、選挙名や選挙期日、選挙啓発に繋がる標語を入れていただきます。
採用されたデザインは、マグネットパネルに印刷され、区の庁有車や清掃車に貼られます。
また、区の公式ホームページでカラーセルパナーとして掲載されるなど、区の選挙啓発活動に広く利用されます。
詳しくは、選挙管理委員会事務局までお問い合わせください。

採用作品は区の庁有車や清掃車に貼られ街の中を走ります！



平成30年6月24日執行



令和元年7月21日執行



あした選挙行く？ 創刊号

令和3年3月

企画・発行：杉並区選挙管理委員会

協力：杉並区明るい選挙推進協議会・杉並区明るい選挙推進委員・杉並区選挙サポーター

制作：NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー

◎問合せ先

杉並区選挙管理委員会事務局

〒166-8570 東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号 TEL：03-3312-2111